

繁栄の水脈

戦後昭和の壮大プロジェクト

愛知用水

わたしたちが毎日当たり前のように使っている水。その水を供給する愛知用水の実現に戦後間もなく立ち上がった人々にスポットを当てた「愛知用水を作った男達」展が、愛知県三好町黒笹のギャラリー「カーテン」で開催されている。2月29日まで。入場無料。



「水の大切さや愛知用水の役割を知ってほしい」と話す実行委員会の戸谷勉さんと孔美恵さん。後ろは「愛知用水概要図」のレプリカ(愛知県三好町のギャラリー「カーテン」)

完成に命を張った男たち

三好町で展示会

愛知用水の実現に尽力した久野庄太郎さん、浜島辰雄さんを紹介するコーナー



愛知用水は同県の東部、9月1961(同36)年、丘部から知多半島にかけての水不足を解消するために戦後計画され、957(昭和32)年に工。木曾川から導水した幹線水路約100キロ、支線水路延約1000キロをわずか4年で建設



愛知用水完成までの道のりを紹介した展示会場

成に尽力した。

「そんな素晴らしい功績を残した人がいることを知らなかった」と言うのは、この展示会を企画した戸谷勉さん(50)。

戸谷さんは日進市で自動車音響機器会社を営む。2年前に同市と東郷、三好町の境界にある愛知池のほとりにシヨールムとギャラリーを兼ねた施設を建て、同池が愛知用水の調整池と知って関心を持った。

昨年7月、用水ができた努力を新聞記事で知り、浜島さんを訪ねた。おそくわたくしと同じように、知らない人が多いはず。展示会をやりたい」と申し出て、浜島さんの快諾を得、実行委員

会を立ち上げるなどして準備を進めた。展示は久野さんと浜島さんを中心とした内容。中でも目を引くのが、時駆け付け「涙が出る」との吉田茂首相への陳情に使われた、浜島さん手作りの「愛知用水概要図」のレプリカ(縦4尺、幅1・8尺)。

この概要図を見た吉田首相が素晴らしい計画と行動力があると、大団結の行動力が必要なのは現在にもいえる」と戸谷さん。

ほかにも用水が完成するまでをまとめたパネルや、浜島さんへのインタビュー映像、久野さんの遺品、当時の写真や新聞記事、戸谷さんが収集した古の農機具など約80点が公開されている。6日のオープニングレモニーには浜島さんとも駆け付け「涙が出る」と開催を喜んだ。戸谷さんは「水を自由なく使える時代だからこそ、気付くことができなかった水のありがたさや愛知用水の重大な役割を1人でも多くの方に知ってもらいたい」と話す。

期間中、愛知用水の水源に当たる長野県大滝村、木相村、用水下流の愛知県美浜町などの物産展を実施。毎週日曜日は音楽グループによる入場無料のコンサートもある。

問い合わせは同展実行委員会 ☎0561-739000。